

昆虫媒介疾患対策事業

平成24年9月
大臣官房国際課（藤井康弘課長）

1. 政策体系上の位置づけ

評価対象事業は以下の政策体系に位置付けられる。

施策目標X-1-1 国際機関の活動への参画・協力や海外広報を通じて、国際社会へ貢献すること。

2. 事業の内容

（1）実施主体

国際機関（世界保健機関（WHO））

（2）概要

本事業は、アフリカ等における昆虫を介した感染症の蔓延をくい止めるため、媒介昆虫対策を統合的に行う統合媒介昆虫管理（IVM）の手法を用いてWHOが行う、昆虫媒介疾患対策を推進するためのガイドラインの策定及びアフリカにおける昆虫媒介疾患の蔓延地域の担当官を対象にした研修指導に対して、医師等の専門家を派遣し、人的支援を行うもの。

3. 事後評価の内容（必要性、有効性、効率性等）

（1）有効性の評価

IVMに関するガイドラインを有する国やWHO地域事務局が増え、その結果共通の媒介生物を有するNTDにおいて、新規発症例の低下や適切な治療を受けている人の増加が見られており、本事業の実施によりNTD対策が着実に進展しているといえる。

（2）効率性の評価

本事業の実施主体であるWHOは、保健専門の国際機関であり昆虫媒介疾患対策を含む幅広い知識を有すること、途上国を中心に約150の国に地域事務所を有し機動的な実施体制を有していること等から、グローバルな協力体制が必要とされる昆虫媒介疾患対策を、効率的に行うことができる。

また、WHO では、NTD 対策として、化学療法の実施や、衛生環境の整備等も行っており、これらと組み合わせた総合的な取組によって、昆虫媒介管理の効果が一層発揮されている。

(3) 評価の総括（必要性の評価）

本事業を実施することにより、途上国における IVM 施策の普及や、NTD 新規発症例の低下など、NTD 対策には着実な進捗が見られている。しかしながら、グローバル化による人口増加と人の移動、都市化に伴う劣悪な衛生環境の貧困層やスラム街の増加、家畜や媒介生物の動き、気候変動による地理的因果関係などの影響により依然 NTD は途上国に暮らす人々の脅威であり、引き続き援助が必要である。

4. 事後評価結果の政策への反映の方向性

平成 24 年に開催されたりオ+20 首脳級会合は、持続可能性のある社会を世界全体で目指すことを中心議題としており、環境と健康の複合課題は重要なテーマとなっている。

よって、このことや評価結果を踏まえ、平成 25 年度は、既存の事業に加え、NTD に係る地域ワークショップを開催し、WHO 加盟国の NTD に対する対応能力を高めることにより、NTD 対策をより強力に推進していくこととし、平成 25 年度予算概算要求において所要の予算を計上する。

5. 評価指標等

指標と目標値（達成水準／達成時期）						
アウトカム指標		19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度
1	アフリカトリパノソーマの新規発症例	10,166	10,388	9,688	6,984	-
達成率		-	-	-	-	-
2	メジナ虫の新規発症例	9,585	4,619	3,190	1,797	-
達成率		-	-	-	-	-
3	アフリカトリパノソーマの適切な治療を受けている人		14%		88%	
達成率						
4	住血吸虫症の適切な治療を受けている人		1,170 万人		3,350 万人	
達成率			6%		17%	
【調査名・資料出所、備考等】						
1, 2 WHO Observatory アフリカトリパノソーマ、メジナ虫はそれぞれハエ及びミジンコを媒介生物とする疾病で、その対策には IVM が有効とされる疾患群であるため。						
3, 4 WHO 第 65 回世界保健総会事務局文書及び進捗報告。上記 2 疾患は、IVM が有効な手段とされる NTD 群であるため。（指標 4 の目標値は 2 億人）						